

小屋浦に笑顔を広げよう

本単元で育成する資質・能力

チャレンジする力

表現する力

協力・貢献する力

- 1 日時 令和3年 12月9日(木) 第5校時
- 2 学年 第5学年1組 男子11名 女子1名 計12名
- 3 単元について

(1) 単元観

本単元は、「自らの経験や調べたことをもとに、小屋浦の防災意識を高めていくために必要な課題を見付け、その課題の解決に向けて積極的に活動することを通して、自分だけでなく、他者の命を守るためにできることを考える」ことを目標に設定している。

本児童は、第2学年の時に西日本豪雨を経験し、第3学年から始まった総合的な学習の時間では、被災した小屋浦地域のために自分達にできることを課題として取り組んできた。第3学年「小屋浦に笑顔をつくろう」において、災害のため小屋浦に元気がなくなっている実態を感じ、小屋浦の人に元気や笑顔を取り戻すために自分達に何ができるかを考えた。そして、学校や地域を「花いっぱい」にすることを課題に設定し、地域の人やPTAの人に協力していただきながら、花壇づくりから行い、花づくりを進める学習を通して、花づくりの苦労や大変さだけでなく、地域の人への願いや子供たちに託したい思いを感じることができた。

第4学年「小屋浦の笑顔を守ろう」において、さらに地域のためにできることをしたいと考え、西日本豪雨での被害について知り、災害への備えや避難の大切さを伝えるためにハザードマップを作成するという学習の探究的な過程を通して、再び災害が起こった時に「災害死0、逃げ遅れ0」を実現したいという思いに至った。

本単元は、児童が積み重ねてきた3年間の学習と深く関わっている身近な課題である。

また、探究のプロセスを学ぶとともに、友達と協力して課題を解決する力や、自己の生き方を考え、積極的に社会に参画しようとする態度を養う上で、本単元は大変重要であると考えている。

(2) 児童観

本学級の児童は、意欲的に学習に取り組むことができる。総合的な学習の時間についても、3年生から、地域をテーマに学びを継続していることで、自分たちが地域のためにできることを考え、行動する等、探究的な学習の過程を通して、課題を解決することに意欲的に取り組む姿が見られる。

5年生の総合的な学習の時間で取り組みたいことをたずねると、全員が「ハザードマップをたくさんの人にってもらいたい」という意見だった。しかし、ハザードマップを何のために掲示するのかという目的を意識していない児童も見られる。また、話し合いや活動中に自分とは違う意見に出会った時に、自分の意見を押し通してしまう児童も見られ、より話し合いで考えを深めていくことには課題がある。

(3) 指導観

- 導入では、4年生の時の学習をワークシートにまとめたり、語らせたりすることで、今後の課題について明確にし、共有させ見通しをもたせる。【ワークシート、学習計画】
- 単元全体を通して、「小屋浦の逃げ遅れ0、災害死0」を達成するためにできることは何かを意識させて学習を進めていく。そのために、企画書を作成させ、ハザードマップを地域に掲示してもらう目的を明確にさせる。【企画書】
- 企画書を共有したり、ハザードマップを掲載したチラシを作ったり、アンケートを分析したりする際にICTを効果的に活用する。【ICTの活用】
- 相手意識を明確にさせ、言葉遣いや発表構成、ハザードマップの活用場面等、伝え方を工夫させる。【4年生、TV取材、掲示をしてくださる地域の方、学習発表会】
- 話し合いの際には、思考ツールを活用し、お互いの考えを共有させ、多面的な考えに気付かせる。【思考ツールの活用】

4 坂中学校区として系統的に育成を目指す資質・能力の具体の姿【高学年】

チャレンジする力 【挑戦】 【粘り強さ】 【解決力】	・自ら課題を見付け、取り組もうとしている。 ・粘り強くやり切ろうとしている。
◎表現する力 【自分】 【目的・相手・場面】 【工夫】	・自分の考えを、目的や相手、場面に応じて、工夫しながら伝えることができる。
協力・貢献する力 【役割】 【感謝】 【行動力】	・学校や家庭、地域の中での役割を考え、皆と協力して行動している。 ・感謝の気持ちを相手に伝わるように表現している。

5 単元の目標

「災害が起こった時に、逃げ遅れ0、災害死0」を目指し、ハザードマップを地域の人に広めるための活動を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、工夫しながら表現するとともに、自らの生き方について考え、協力して行動しようとする。

6 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①地域の人が、災害から命を守るための活動を支援していることを知るとともに、防災意識には一人一人違いがあることを理解している。 ②ハザードマップを広げるための活動を、目的や対象に応じた適切さで実施することができる。 ③地域のために、自分たちができることがあることに気付いている。	①課題を設定し、見通しをもって計画している。 ②課題解決に向け、多様な情報の特徴に応じて整理し考えている。 ③課題の解決に向けた企画書やチラシ、ポスターの作成に当たり、何をするのか、何のためにするのかを意識し作成している。 ④発表やハザードマップ掲示の際、相手意識をもって、分かりやすく伝えることができる。	①振り返りを通して、自分から探究的な活動に取り組もうとしている。 ②地域のために、自分でできることを考え行動しようとしている。 ③活動の様々な場面で、相手に感謝の気持ちが伝わるように表現している。

7 他教科との関連

国語科	理科	道徳科
「みんなが過ごしやすい町へ」 「どちらを選びますか」 「よりよい学校生活のために」 「意見が対立したときには」	「天気を予想しよう」	「わたしのボランティア体験」 C 勤労、公共の精神

8 指導と評価の計画（全45時間 本時8／45時間）

小単元名 (時数)	時間	学習活動	評価規準	評価方法
学習の見通しをもと (7)	1	○4年生までの学習について振り返る。 ・5年生で解決したい課題	思①	・発言分析、ワークシート分析
	2	ハザードマップを広めて、避難スイッチを押そう。		
	3～5	○4年生に昨年の学習やハザードマップの紹介をする。	知②	・発言分析、行動観察
	6	○TV取材で、ハザードマップを紹介する。	知②	・発言分析、行動観察
	7	○マイタイムラインの出前授業を受けて、避難の必要性についての考えを深める。	知①	・発言分析、ワークシート分析
	8	○ハザードマップを広めるための作戦を考える。		
	9～12	・掲示場所の選定【本時】 ・企画書づくり	思②態① 思③	・発言分析、思考ツール分析 ・企画書分析（ICTの活用）
準備をしよう (13)	13	○ハザードマップ掲示に向けて準備する。 ・持ち帰り用チラシ作り	思③	・ICTの活用、行動観察、ポスターの内容
	14～20	・ハザードマップの修正 ・掲示用ポスター作り ・アンケート作成	態①	・ワークシート分析
	21	○地域3か所にハザードマップを掲示してもらおう。 ・企画書を説明して、事前のお願いをする。	知②	・発言分析、ワークシート分析
掲示をしよう (15)	22	・ハザードマップを掲示させてもらう。	知③ 思④態④	・発言分析、ワークシート分析 ・発言分析、ワークシート分析
	23	○ハザードマップとアンケートを回収する。 ・回収に出向く。		
	24～35	・アンケートの分析を行う。 ・お礼の手紙を書く。 ・アンケートを基に、再修正する。 ・修正したことを伝えるポスターとチラシを作成する。 ・再掲示をお願いする。	思② 態③ 態①	・発言分析、ワークシート分析 ・手紙の内容 ・行動観察、ポスターの内容、ICTの活用 ・ワークシート分析
発表しよう (10)	36	○学習の成果をまとめて、学習発表会で報告する。	思④	・発言分析、行動観察
	37～41			
	42	○認知症サポーター研修を受け、認知症の方の避難について考える。	思②	・発言分析、ワークシート分析
	43～45	○単元末の振り返りをする。	態①②	・ワークシート分析

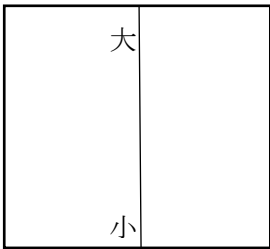
(3) 準備物

- ・付箋、ホワイトボード、振り返りシート

(4) 板書計画

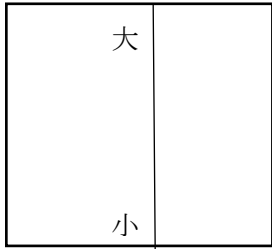
㉞ ハザードマップを掲示する場所を決定しよう。

2丁目



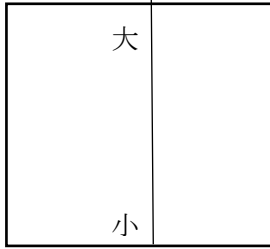
○郵便局
駅
ふれ合いセンター

3丁目



お好み焼き屋
○ふれ合いセンター

4丁目



○トイシバ電機

㉞より多くの人に
見てもらうための
条件を考えて決定
できた。

【児童の変容】

4月当初

5年生でしたいことは？ (高尾者を一番最初に)
・ハザードマップを小屋浦住んでいる人全員に見せる。
・写真をとってけいじばいにする。

6/1 掲示場所の決定 (本時)

今日は、いい話し合いができてよかったです。でも、まだまだいっぱいやる事があって、時間がないのでがんばりたいです。

6/25 チラシ作りの振り返り

今日は、しっかりチラシを作ることができました。頭でどんなのを作ろうか、前からイメージできて作ったので、早く終わらせることができました。避難スイッチを一番知ってもらいたいです。

7/20 ハザードマップ掲示期間中の振り返り

ハザードマップを掲示して、どんだんみんなが見て行って広まっているのでよかったです。アンケートも、避難する気持ちになった人が全員だったのでよかったです。(今のところ)

単元のまとめ

単元を始めた時の児童の思いはハザードマップを見てもらうためにできることが中心だった。

単元が進むにつれて、自分たちの思いを伝えることの大切さを感じ、これから自分がしていきたいことに、新たな視点が生まれている。

(その他の児童にも、同じ傾向が見られた。)

学習発表会で自分の伝えたかったこと
ぼくたちが3年生からやってきたことや災害にきょう
みを持ってほしいこと。避難するタイミング
やぼくたちの思い。地域の方やいろいろな人が関わっていること
5年生の「総合的な学習の時間」で成長したこと
・地域の方などにどのようなことをするとぼく
たちの思いが伝わるかなと考える力。
・感謝の気持ちをもって何事も全力で挑
戦するということ。発表などをするときわく
本気どを見習いということ。自分たちの考えをはっきり伝えて
これから自分がしていきたいこと。果敢とやる力。
・自分自身のできることを考えてそれを挑戦
してみる。災害が起こりそうなとき地
いきの人に声をかけるなどをする。日
ごろから、地いきの人と親しくして助け合う。
・災害死の逃げおくれのいらいら。災害が起こり
そうな時などに
近づけること。